

宮本久雄先生 経歴・研究業績一覧

● 経歴

一九四五年二月二三日 新潟県上越市に生まれる。

一九七〇年 東京大学文学部哲学科卒

一九七二年 同大学院人文科学研究科修士課程修了

一九七九年 カナダ・オンタリオ州立哲学神学大学修士課程修了

一九八一年 仏立エルサレム聖書学研究所学士課程修了

一九八二年 パリ・カトリック大学神学部博士課程中退

一九八二年 東京大学養学部助教

一九八二年―二〇〇七年 聖心女子大学・白百合女子大学・早稲田大学・長崎純心大学・聖カタリナ大学非常勤講師

一九八二年―現在 北海道大学・九州大学・熊本大学・山口大学・東京都立大学（現首都大学東京）非常勤講師

一九九〇年 東京大学養学部教授

一九九一年 同大学院総合文化研究科教授

一九九二年―一九九三年 東北大学非常勤講師

一九九九年―二〇〇一年 東京芸術大学非常勤講師

二〇〇二年 学術博士（東京大学）

二〇〇七年 東京大学退官、同大学名誉教授

二〇〇七年 上智大学神学部教授
二〇一五年 上智大学退官

学界における活動

一九八三年—現在 中世哲学会会員（一九九〇年—二〇〇九年…常任委員、二〇〇〇年—二〇〇五年…会長職、二〇〇九年—現在…理事職）

一九八三年—現在 日本聖書学研究所所員

一九八五年—現在 教父研究会会員（二〇〇五年—二〇一二年…会長職）

一九八五年—現在 東京大学哲学会会員（二〇〇四年—現在…理事職）

一九八五年—二〇〇八年 日本西洋古典学会会員

一九八八年—現在 大森正樹、谷隆一郎（敬称略）と共に学術雑誌『エイコーン—東方キリスト教研究—』創刊および主宰

一九九〇年—二〇一二年 聖心女子大学キリスト教文化研究所所員

一九九六年—現在 日本哲学会会員

一九九八年—現在 日本カトリック神学会会員

二〇〇〇年—現在 大森正樹、谷隆一郎と共に東方キリスト教学会創設（二〇〇八年—二〇一三年…会長職）

二〇〇二年—二〇〇七年 東京大学二一世紀COE・共生のための国際哲学交流センター（UTCP）事業推進担当者

二〇〇六年—現在 日本倫理学会会員

二〇〇九年—現在 上智大学共生学研究会創設および学会誌『共生学』主宰

二〇一三年—現在 上智大学キリスト教文化研究所所員

●研究業績

単著書

- ・『エレミアの告白、研究ノート』トマス・アクイナスにおける肯定、否定、卓越の途』古代・中世哲学研究会、一九八一年。
- ・『教父と愛智—ロゴス（言）をめぐる—』新世社、一九八九年（一九九〇年改訂増補）。
- ・『聖書と愛智—ケノーシス（無化）をめぐる—』新世社、一九九一年。
- ・『宗教言語の可能性—愛智の一風景・中世』勁草書房、一九九二年。
- ・『「関わる」ということ—聖書の眼差し—』新世社、一九九七年。
- ・『福音書の言語宇宙—他者・イエス・全体主義』岩波書店、一九九九年。
- ・『他者の原トポス—存在と他者をめぐるヘブライ・教父・中世の思索から』創文社、二〇〇〇年。
- ・『存在の季節—ハヤトログア（ヘブライ的存在論）の誕生』知泉書館、二〇〇二年。
- ・『愛の言語の誕生—ニュッサのグレゴリオスの「雅歌講話」を手がかりに』新世社、二〇〇四年。
- ・『危機的な時代状況の中で』（真生会館ブックレット2）サンパウロ社、二〇〇五年。
- ・『恨と十字架』新世社、二〇〇五年。
- ・『「ヨブ記」物語の今日的問いかけ—苦難・神・他者の発見—』新世社、二〇〇六年。
- ・『いのちの記憶—受難と甦りの証言—』新世社、二〇〇七年。
- ・『他者の甦り—アウシュヴィッツからのエクソダス』創文社、二〇〇八年。
- ・『身体を張って生きた愚かしいパウロ—身体と他者』新世社、二〇〇九年。
- ・『旅人の脱在論—自・他相生の思想と物語りの展開』創文社、二〇一一年。
- ・『ヘブライ的脱在論—アウシュヴィッツから他者との共生へ』東京大学出版会、二〇一一年。
- ・『他者の風来—ルーアッハ・プネウマ・氣をめぐる思索』日本キリスト教団出版局、二〇一二年。

・『出会いの他者性——プロメテウスの火（暴力）から愛智の炎へ』知泉書館、二〇一四年。

共編者

- ・「身・こころ・愛」、井上忠・藤本隆志・山本巍・宮本久雄「倫理——愛の構造」所収、東京大学出版会、一九八五年、一四三—二四〇頁。
- ・「ニュッサのグレゴリオスにおける神の似像」、上智大学中世思想研究所編『中世の人間像』所収、創文社、一九八七年、三—二八頁。
- ・「宗教的言語が披く地平と科学的世界」、大森莊蔵編『科学と宗教』所収、放送大学教育振興会、一九八八年、七八—九七頁。
- ・「心とは何か」、村上陽一郎編『心のありか』（シリーズ人間と文化3）所収、東京大学出版会、一九八九年、一一—三八頁。
- ・「仲介する第三者…ヨハネ福音書とプネウマ言語」、市川浩ほか編『翻訳』（現代哲学の冒険5）所収、岩波書店、一九九〇年、三三九—四一七頁。
- ・「エックハルトのドイツ語説教の意義」、K・リーゼンフーバー・谷隆一郎・山本耕平・荒井洋一編『中世における知と超越——思索の原点をたずねて』所収、創文社、一九九二年、二三九—二八四頁。
- ・「総序」、上智大学中世思想研究所編・宮本久雄編訳監修『盛期ギリシア教父』（中世思想原典集成2）所収、平凡社、一九九二年、七—二二頁。
- ・「中世哲学」、山本巍ほか『哲学・原典資料集』所収、東京大学出版会、一九九三年、六一—一〇一頁。
- ・「古典の新解釈——ニュッサのグレゴリオスによるアレゴリアとアコルティア解釈法——」、新田義弘ほか編『テキストと解釈』（岩波講座現代思想9）所収、岩波書店、一九九四年、二八五—三一八頁。
- ・「イエスの譬え話 『彼方』から『彼方』への呼びかけ」、宮本久雄・山本巍・大貫隆編『聖書の言語を超えて——ソクラテス・イエス・グノーシス』所収、東京大学出版会、一九九七年、一一—二〇〇頁。
- ・「他者の可能的地平・プネウマ（霊）」、聖心女子大学キリスト教文化研究所編『地球化時代のキリスト教——自己変成の途』所収、春秋社、一九九八年、四五—六二頁。
- ・「語りえぬもの」の痕跡、「無」荒野に咲く花」、宮本久雄・岡部雄三編『語りえぬもの』からの問いかけ——東大駒場「哲学・

- 「宗教・芸術」連続講義』所収、講談社、二〇〇二年、一八頁、七二―九二頁。
- ・「一神教の根源と彼方―預言者エリヤの物語」、「恋愛と一神教―唯^{かがえのな}・一回性ということ」、「おわりに」、宮本久雄・大貫隆編『一神教文明からの問いかけ―東大駒場連続講義』所収、講談社、二〇〇三年、二二〇―二四二頁、二四三―二五一頁。
- ・「はじめに」公共の現成、宮本久雄・金泰昌編『文化と芸能から考える公共性』（公共哲学叢書15）所収、東京大学出版会、二〇〇四年、i―xi頁。
- ・「神の淵源、悪と他者性」、池上良正ほか編『根源へ―思索の冒険』（岩波講座宗教4）所収、岩波書店、二〇〇四年、二三一―五二頁。
- ・「存在の乱調」、聖心女子大学キリスト教文化研究所編『共生と平和への道―報復の正義から赦しの正義へ』所収、春秋社、二〇〇五年、二五三―二六八頁。
- ・「他者との出会いに吹く風（ブネウマ）―ニュッサのグレゴリオスによる『雅歌講話』のメッセージ―」、荻野弘之編『神祕の前に立つ人間―キリスト教東方の靈性を拓く―』所収、新世社、二〇〇五年、一〇一―一三六頁。
- ・「協働態の公共圏の諸相とベルソナー・トマス・アキナスの共通善哲学を手がかりとして」、「あとがき―古典が示す『限界概念』と共に」、宮本久雄・山脇直司編『公共哲学の古典と将来』（公共哲学叢書8）所収、東京大学出版会、二〇〇五年、五三―一〇〇頁、二九三―二九七頁。
- ・「宮沢賢治と四次元的修羅協働態―修羅的言語の披く地平」、平石直昭・金泰昌編『知識人から考える公共性』（公共哲学叢書17）所収、東京大学出版会、二〇〇六年、二一九―二九六頁。
- ・「受難の民衆神学―韓国思想の観点から」『歴史理解を共有する方途の探求―国家暴力・記憶・コロニアリティー再考』延世大学人文学研究所編、延世大学出版、二〇〇六年、一七五―一九九頁。
- ・「はじめに」、「アブラハムの受難と他者の地平―漂泊の物語からハヤトログア（ヘブライ的存在論）的共生へ」、宮本久雄・大貫隆・山本魏編『受難の意味―アブラハム・イエス・パウロ』所収、東京大学出版会、二〇〇六年、i―v頁、八一―一七四頁。
- ・「はじめに」、「人間の淵―ハーヤー存在とアウシュヴィッツの解釈学」、大貫隆・金泰昌・黒住真・宮本久雄編『一神教とは何か―公共哲学からの問い』所収、東京大学出版会、二〇〇六年、i―vii頁、九一―一五五頁。

- ・「はじめに——落語・他者創生の機微」、「苦難と他者の物語地平——『ヨブ記』の生成・転法的物語論的解釈から」、宮本久雄・金泰昌編『他者との出会い』（シリーズ物語り論1）所収、東京大学出版会、二〇〇七年、i—ix頁、二八一—三二二頁。
- ・「はじめに」、「アブラハム物語」の現代的地平——自同性の超克・脱在（ハ・ヤー）と自他論の物語へ」、宮本久雄・金泰昌編『原初のことば』（シリーズ物語り論2）所収、東京大学出版会、二〇〇七年、i—vi頁、三一—六二頁。
- ・「はじめに」、「もう一つのこの世」に向かって——石牟礼文学におけるポロシオ（隣人）の玄郷（くに）と近代」、宮本久雄・金泰昌編『彼方からの声』（シリーズ物語り論3）所収、東京大学出版会、二〇〇七年、i—x頁、一〇九—一二二頁。
- ・「人間における徳——生む・奪う・働く・考える・希望する・共鳴する」、黒住真編『徳の巻』（シリーズ思想の身体）所収、春秋社、二〇〇七年、二二四—二八八頁。
- ・「幸い」への接近——幸福と苦難の彼方」、光延一郎編『イエス・キリストの「幸福」——キリスト教の原点を見つめて』所収、サンパウロ社、二〇〇八年、一三四—四四頁。
- ・「石牟礼文学における『恨』の可能性」、西江大学校神学大学院編『恨、昇華、解放』所収、西江大学校出版、二〇〇八年、七三—八〇頁。
- ・「現代における異邦人性——他者の拓きとキリスト者——」、光延一郎編『今、日本でカトリックであることとは』所収、サンパウロ社、二〇〇九年、四九—八九頁。
- ・「哲学の歴史」、「教父の思想史」、増田祐志編『カトリック神学への招き』所収、上智大学出版、二〇〇九年、三二—二〇頁、三五—五三頁。
- ・「身体（soma・ソーマ）を張って生きたパウロとは？」、上智大学キリスト教文化研究所編『パウロの現代性——義認・義化の教師としてのパウロ』所収、リトン、二〇〇九年、八九—一二二頁。
- ・« La naissance de l'Épiphénologie. Au-delà de la pensée bouddhiste et de l'ontothéologie », *DIOGÈNE*, Presses Universitaires de France, Paris, 2009, 73-91.
- ・「高森草庵における咸鏡憲——韓国のガンジー——の霊的『顔』」、『日韓哲学フォーラム』所収、ナノク出版、二〇一〇年、一五四

一六二頁。

・「シンポジウム『死と再生』」、「むすびとひらき」、宮本久雄・武田なほみ編『死と再生』（二〇〇九年上智大学神学部夏期神学講習会講演集）所収、日本キリスト教団出版局、二〇一〇年、三二二—三三九頁、三四一—三四二頁。

・「キリスト神学の誕生とその伝承——ギリシア教父から西洋スコラ神学へ」、「むすびとひらき」、「大学の智と共育」研究会監修、宮本久雄ほか編『大学の智と共育——カトリック大学の未来を探る』所収、教友社、二〇一一年、五〇—七〇頁、三〇三—三一二頁。

・「善きサマリヤ人」の譬えの地平——今日にどんな出会いの地平を披きうるのか、「シンポジウム『危機とその彼方への予感』」、「むすびとひらき」、宮本久雄・武田なほみ編『危機と霊性——Spirituality Beyond Crisis』（二〇一〇年上智大学神学部夏期神学講習会講演集）所収、日本キリスト教団出版局、二〇一一年、一五一—一八〇頁、三三九—三六五頁、三六七—三七二頁。

・「宗教的共生の思想——修道会の会憲・会則にみる——」、宮本久雄編『宗教的共生の思想』所収、教友社、二〇一二年、四五—九四頁。

・「シンポジウム『放射能の荒野・隣人・共生』」、「むすびとひらき」、宮本久雄・武田なほみ編『あなたの隣人はだれか——現代における共生の行方』（二〇一一年上智大学神学部夏期神学講習会講演集）所収、日本キリスト教団出版局、二〇一二年、三〇三—三三四頁、三三五—三三九頁。

・「ニュッサのグレゴリオスにおける共生の理念と実践——『モーセの生涯』と『説教集』を手がかりに——」、宮本久雄編『宗教的共生の展開』、教友社、二〇一三年、五三—八二頁。

・「ニュッサのグレゴリオスの『雅歌講話』が披く地平」、「シンポジウム『男における女と女における男との出会い』」、「むすびとひらき」、宮本久雄・武田なほみ編『女と男のドラマ——現代における愛の源泉』（二〇一二年上智大学神学部夏期神学講習会講演集）所収、日本キリスト教団出版局、二〇一三年、六七—九四頁、二九九—三二七頁、三二八—三三二頁。

・「むすびとひらき」、宮本久雄編『宗教的共生と科学』所収、教友社、二〇一四年、二四六—二五五頁。

・「ニヒリズムの時代と信」、「シンポジウム『信の泉から共に汲む』」、「むすびとひらき」、宮本久雄・武田なほみ編『信とは何か——現代における（いのちの）泉』（二〇一三年上智大学神学部夏期神学講習会講演集）所収、日本キリスト教団出版局、二〇一四年、一一—三九頁、三〇七—三三一頁、三三三—三三六頁。

・「根源悪からのエクソダス—エヒイエロギア（ヘブライ的脱在論）の構想—」、「むすびとひらき」、宮本久雄編『ハヤトロギアとエヒイエロギア—「アウシュヴィッツ」と「FUKUSHIMA」以後の思想の可能性」、教友社、二〇一五年、七九—一三〇頁、三六三—三六六頁。

辞書類

- ・『広辞苑』（第五版、第六版）新村出編、岩波書店、一九九八—二〇〇八年。
- ・『岩波哲学・思想事典』廣松渉・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄ほか編、岩波書店、一九九八年。
- ・『岩波キリスト教辞典』大貫隆・宮本久雄・名取四郎・百瀬文晃編、岩波書店、二〇〇二年。
- ・『岩波世界人名大辞典』岩波書店辞典編集部編、岩波書店、二〇一三年。

翻訳

- ・V・ロースキイ『キリスト教東方の神秘思想』勁草書房、一九八六年。
- ・ニュッサのグレゴリオス『雅歌講話』大森正樹・宮本久雄・谷隆一郎・篠崎榮・秋山学訳、新世社、一九九一年。
- ・ニュッサのグレゴリオス『雅歌講話 第五講話・第六講話』、上智大学中世思想研究所編・宮本久雄編訳監修『盛期ギリシア教父』（中世思想原典集成2）所収、平凡社、一九九二年、四三—一四八二頁。
- ・E・スヒレバーク『イエス—一人の生ける者の物語』（第二卷）宮本久雄・筒井賢治訳、新世社、一九九四年。
- ・O・クレマン、J・セール『イエスの祈り』（東方キリスト教叢書III）宮本久雄・大森正樹訳、新世社、一九九五年。
- ・L・ブイエ『教父と東方の靈性』（キリスト教神秘思想史1）大森正樹・長戸路信行・中村弓子・宮本久雄・渡辺秀訳、平凡社、一九九六年。
- ・『フィロカリアI—東方キリスト教靈性の精華』宮本久雄・桑原直己訳、新世社、二〇〇七年。
- ・『フィロカリアVIII—東方キリスト教靈性の精華』宮本久雄・高橋雅人・北垣創・大森正樹訳、新世社、二〇一二年。

・「フィロカリアⅡ——東方キリスト教靈性の精華」宮本久雄・高橋英海・中西恭子・高橋雅人・袴田玲詠、新世社、二〇一三年。

主要論文

・「Passion de Dieu (le récit de Gethsémani de Marc: 14, 32-42) », *Journal of the Department of Liberal Arts, University of Tokyo*, No. 15 (1982), 1-71.

・「Sculpter l'Image du "MOI" selon Grégoire de Nysse », *Proceedings of the Department of Humanities, College of General Education, University of Tokyo*, Vol. 77, Series of Philosophy, No. 22 (1983), 73-94.

・「擬ディオニュシオスの言語表現『神秘』をめぐって——否定詞 'oude' outhe の機能——(一)」東方キリスト教学会編『エイコーン』創刊号(一九八八)三六―四三頁。

・「恩恵的行為論の披く『存在と人間』理解——トマス・アクイナスを通じて——」中世哲学会編『中世思想研究』三三三号(一九九二)五一―六八頁。

・「哲学の責任と責任(特集:現代における哲学の意味)」哲学会編『哲学雑誌』一一〇巻七八二号(一九九五)六九―八八頁。

・「はじめ(特集:はじめ)」哲学会編『哲学雑誌』一一六巻七八八号(二〇〇二)一一―二二頁。

・「ハヤトロギアの視点による生・死と他者問題の現場」, 死生学研究編集委員会編『死生学研究』秋号(二〇〇四)一一八―一二五頁。

・「Hayatologie et Onto (théo) logie occidentale — Raconter "le récit d'Abraham," récit qui constitue le soi et l'autre —», *Patristica. Supplementary Volume 2* (2006), 135-156.

・「レヴィナスにおける解釈学のヘブライ的契機——気(ルーアツハ)の psychisme, inspiration (特集:レヴィナス——ヘブライズムとヘレニズム)」哲学会編『哲学雑誌』一二二巻七九三号(二〇〇六)一〇〇―一二二頁。

・「中世哲学とハヤトロギア——現代的存在・神論(Onto-theologia)の彼方へ」中世哲学会編『中世思想研究』四九号(二〇〇七)一一―一八頁。

・ 'Recounting "the Tale of Abraham" — Narrative that constitutes Ego and Alter Ego —', *Bulletin of University of Tokyo, Center for Philosophy, Inter-religions Dialogues and Reconciliation in the Contemporary world*, Vol. 7 (2007), 1-24.

・ 宮沢賢治の宗教的宇宙とその修羅的菩薩像——法華経と妹トシの息吹き——、上智大学キリスト教文化研究所編『キリスト教文化研究所紀要』二七号（二〇〇八）三一—五二頁。

・ 身体を張る愚かな、愚かなパウロ、南山大学人文学部キリスト教科編『南山神学』三二号（二〇〇九）一一—三〇頁。

・ 「現代におけるトマス・アクィナスの意義——『在るもの・ens』および知性の超越性をめぐって」、上智大学哲学会編『哲学論集』三八号（二〇〇九）七七—一〇〇頁。

・ 「水雲崔濟愚の神秘体験——東学農民運動の根源から現代の共生へ——」、上智大学キリスト教文化研究所編『キリスト教文化研究所紀要』二九号（二〇一〇）五一—二〇頁。

・ 「暴力と理性——テキスト（textus）の解釈をめぐって——」、上智大学哲学会編『哲学論集』四一号（二〇一二）一一—二六頁。

・ 「根源悪からのエクソダス（脱在）——ヘブライ的脱在論（エヒイエロギア）の構想——」、上智大学共生学研究会編『共生学』七号（二〇一三）七二—九九頁。

【補記】 以上の業績の他に、宮本久雄先生の主催された国内外のシンポジウムや学術会議、および学会発表や講演等もありますが、あまりに膨大な数に上るため、紙幅の関係上、ここでは割愛させていただきます。（袴田涉、袴田玲 作成）